

市町村と県による協働電子図書館

デジとしょ信州

 による

長野県民は
だれでも
いつでも
どこからでも!

学びの基盤と公正な社会づくり



市町村と県による協働電子図書館運営委員会／長野県

(2023年11月6日)

デジとしょ信州

1

「デジとしょ信州」協働のしくみ(令和4年～の5か年事業)



県内全ての自治体が、協働で
導入する事例は「**全国初**」!

デジとしょ信州

2

長野県で協働電子図書館の実現は、画期的かつ必然！

3



- 山間部が多く広い県域をもつ長野県
 - 市町村の数:77(全国第2位)
19市、23町、35村(村数全国第1位)
 - 議論好きで、知識欲が旺盛。独立心が強い県民性
 - 各地域が独自の文化を育ててきた
- 長野県の全自治体が一つに！
 - 長野県として、画期的な出来事
 - 長野県だからこそ、必然

3

「デジとしよ信州」とは？

4

- 公共図書館による電子書籍の貸出サービス



- 本棚は、どなたでもご覧いただけます
(スマホ、タブレット、パソコンから)

<https://shinshu-kyodo-library.overdrive.com/>



図書館で発行する
利用IDでサインイン



読みたい電子書籍を
一度に2冊まで
1週間 借りられる



期限が来たら
自動返却
返し忘れの心配なし

4

「デジとしょ信州」とは？

5

● リアルな図書館で本を借りるしくみとの類似点

- 利用登録で、本が借りられる、予約ができる
- 基本的には、一冊の本を同時に一人が借りられる仕組み
- 図書館がコストを賄い、利用する本人は無償で借りられる

● 電子書籍ならではのメリット

- **図書館に行かなくても、365日、24時間いつでも、本が借りられる**
⇒ 遠くても、閉まっても、忙しくても、災害や免許返上などで出歩きづらくても、居ながらにして利用可能
- **文字の拡大ができたり、オーディオブックを耳で聴いたりできる**
⇒ 本の読みやすさがアップし、**読書バリアフリー**につながる

質の高い
教育を
みんなに

「信州 SDGs」の取り組みの1つに位置付けられています

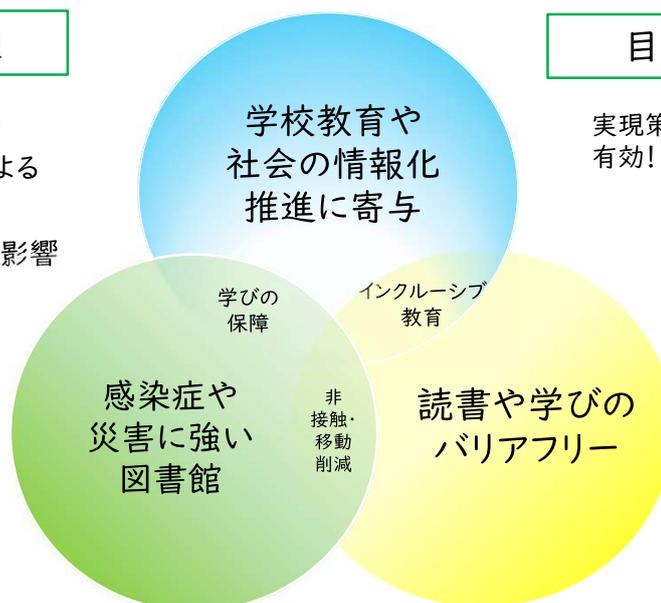
デジとしょ信州

5

協働で「電子書籍サービス」に取り組んだ背景

解決したい課題

- (1) 「情報の形」の変化
- (2) 地域的な条件等による情報格差
- (3) コロナ禍、災害等の影響



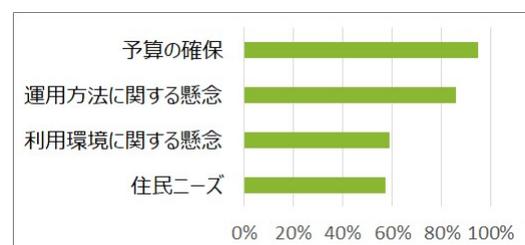
目指したい姿

実現策として「電子書籍」が有効！しかし、現実には・・・

デジとしょ信州

6

アンケートで明らかになった市町村(図書館)の悩み



【課題】

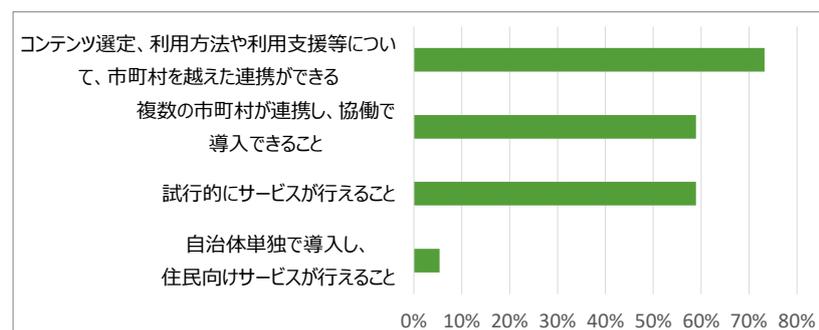
- 予算の確保:9割以上
- 運用の懸念:8割以上

【希望】

- 市町村を越えた連携:7割以上

【コメント】

- 議会で質問があった
- 単独導入は壁が高い
- 図書館が台風による水害にあい、必要性を痛感



「電子書籍貸出サービス」に関するアンケート(R3.1)
対象:長野県内公立図書館
(回答率100%)

予算確保と運用のハードルが高いことが明らかに

デジタル信州

7

市町村と県の協働で「だれ一人取り残さない長野県へ」

市町村と県とが協働して電子図書館のサービスを構築

情報へのアクセスを保障

「災害」「感染状況」等になるべく影響されず、図書館サービスを提供し続ける環境をつくる

×

リーチを拡げる

「地理的条件」「生活スタイル」「特別な配慮」などで利用しづらかった住民にサービスを届ける

これまでできなかったことを

これまで届かなかった人へ

情報基盤・ノウハウの共有 + 全体の事務コストの軽減

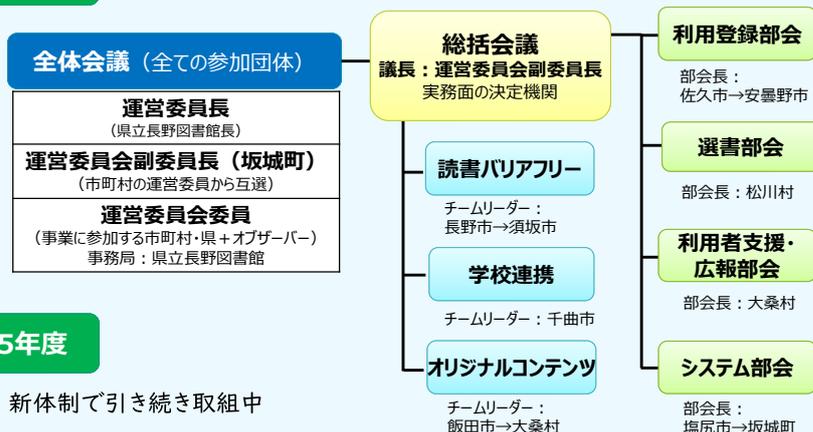
デジタル信州

8

前例のない事業に デジタルツールを活用して 人的ネットワークで挑む

R3年度 長野県先端技術活用推進協議会にWGを設置して検討(事務局:県DX推進課)

R4年度 市町村と県による協働電子図書館運営委員会(事務局:県立長野図書館)



市町村立図書館・公民館
図書室、教育委員会、
DX担当など、多様な
ステークホルダーが連携

市長会、町村会、教育長会、
自治振興組合、
市町村振興協会へもご説明
(宝くじ助成金)

広い長野県内全域から
オンラインで集結!

R5年度

新体制で引き続き取組中

デジタル信州

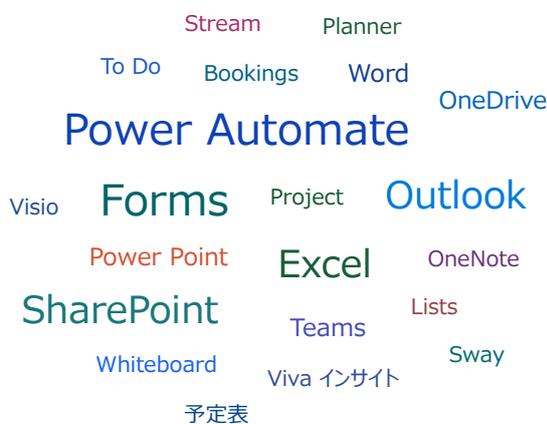
9

自治体を越えたプロジェクトの事務処理・情報共有をDXで効率化!

- 市町村からの運営に関する気づきや質問を、総括会議メンバーへ自動で即時共有
- 電子申請で受け付けた利用登録を、図書館業務システムに自動取込 など

効率化は、県が整備する
情報システム基盤で
RPA (自動化処理) などの
ツールを活用して実現

情報システム基盤の一部である次世代コミュニケーションツール「Microsoft 365」を活用



デジタル信州

10

令和4年8月5日 県内全自治体をつないだオープニングセレモニー



たくさんの首長や教育長、関係者が参加！ これはゴールではなく、スタートです

デジとし 信州

11

システム開発元（米国）のCEO、国内サービス事業者と意見交換



日本語環境の改善や
コンテンツの拡充に向けた
対話と協働を続ける

大きな視点で、公共図書館向け電子書籍サービスの環境改善を目指す

デジとし 信州

12

アウトプットを見える化し、その先のアウトカムへ

13

●利用者IDのしくみを工夫:

- ✓ 市区町村コード、利用者生年、図書館利用カード番号から生成
 - **市町村ごと、年代・世代ごとの利用実態を見える化**
⇒ ニーズ把握、プロモーション、選書方針に活かす
 - **リアル図書館との相乗効果を確認** ⇒ 新たな顧客層の開拓に活かす

●投資効率の向上への期待(アウトプット)

- ✓ 住民の図書館利用率、貸出回転率の向上

●顧客満足度向上への期待(アウトカム)

- ✓ 地域の活性化、課題解決力の向上
- ✓ 地域への愛着、幸福感の向上

エビデンスに基づき
公共サービスとしての
図書館の存在意義を示す



持続可能なサービス
にむけた財源確保

<留意事項>

貸出情報はビッグデータとして統計処理しサービス向上に役立てる。個人のIDと貸出情報は紐づけしない

デジタル信州

13

こんなふうに使われています! ①コンテンツ数とID登録数 (2023年9月末現在)

●コンテンツ数:

22,268点

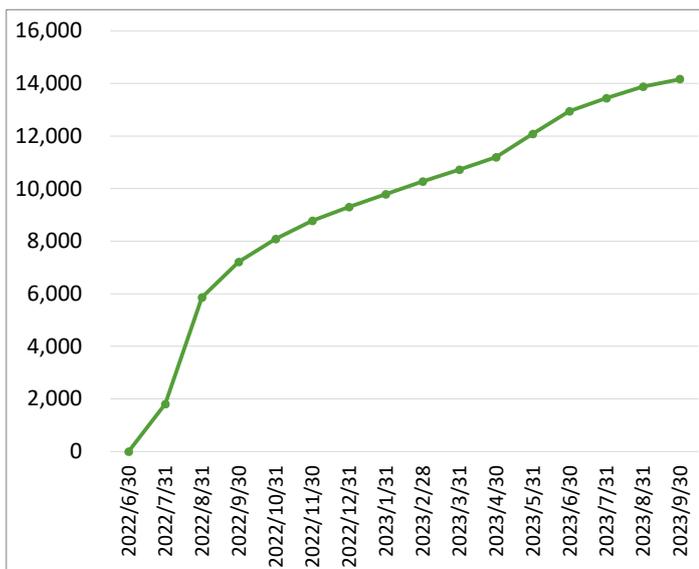
- スタート時:18,450点
継続的に増やしています

●ID登録数(累計):

14,165人

- 長野県の人口:2,006,393人
(2023年9月1日現在)
- 県民の0.76% (まだまだこれから!)
- IDを一括登録する学校も

知ってもらう
親しんでもらう
さらなる工夫を!

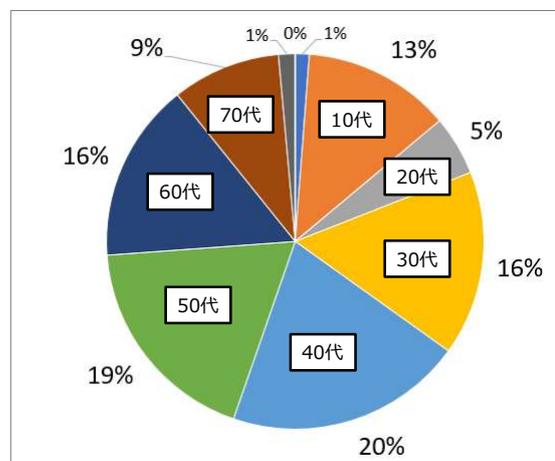


デジタル信州

14

こんなふうに使われています! ②貸出数・年代 (2023年9月末現在)

- 貸出数:
88,086冊
- 貸出者年代:
 - ✓ 40代を中心に、30代~60代が多い
 - ✓ リアルな図書館を利用しづらい、働く世代にリーチ
 - ✓ 10代も増加。さまざまな年齢層に広がっている



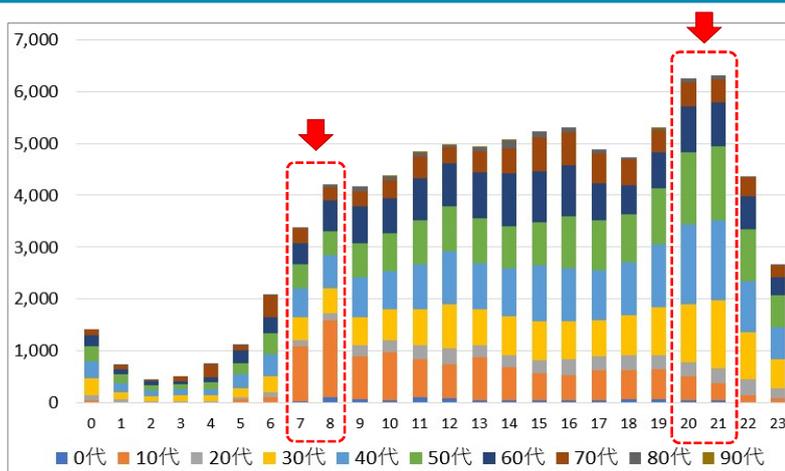
県民の声

- 視力が低いので、拡大機能が重宝する
- 心配した文字の大きさや行間など、**高齢者にも優しい**
- オーディオブックもいい。長く愛用したい

デジタル信州

15

こんなふうに使われています! ③使われる時間帯と年代 (2023年9月末現在)



● 使われる時間帯:

- ✓ 最多: 20時~21時
図書館が開いていない時間帯の利用
- ✓ 注目: 7時~8時
10代の利用が多い

電子書籍ならではの
使い方が見えてきた

- 隙間時間が読書タイムとなり、読書量が一気に増加
- 普段読まないジャンルにも挑戦できる
- 家にいるまま、スマホで本が借りられるの、快適すぎる

県民の声

デジタル信州

16

読書バリアフリーのさらなる充実に向けた前進

● 視覚障がい者向け電子図書館

「アクセシブルライブラリー」の導入

スマホ、タブレット、PCで
コンテンツを楽しめる

- 電子書籍を音声自動読み上げで提供
※盲学校や長野県視覚障害者福祉協会等とも連携

QRコードを読み取って
かんたんログイン



● 今後も、さまざまなバリア解消に向けて取り組んでいく

- 外出がしにくかったり、身体的・地域的・経済的などの要因で読書が困難な人へ、読書環境を届ける

- 小さい村でも、同じサービスを提供できるのは、「デジとしよ信州」をみんなでやっているおかげ!

図書館
現場の声

デジとしよ信州

17

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ① 広報との連携



千曲市役所公式
YouTubeチャンネル



デジとしよ信州で
あなたのスマホが図書館には
デジとしよ信州

18

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ②学校との連携

● 高森町:

- 高森北小:1年生全員がリアル図書館に登録
- 3年生で全員がデジとしよ信州に登録
- 地域資料の電子化にも力を入れる



紙とデジタルの
自発的な
使い分け



● 佐久市:

- 英語の本の読み聞かせて、ネイティブスピーカーによる読み上げ機能を活用して練習(小学校5年)

デジタルの
特長を
活かす



● 安曇野市:

- リアル図書館を社会科見学後、利用登録を行い、デジとしよ信州IDも発行(小学校)

デジとしよ信州

19

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ③地域との連携

● 大桑村:

- 村立図書館の開館(2022年9月)に合わせて電子書籍も同時スタート!



相乗効果
を目指す

暮らしの
安心に+αの
楽しみを!



● 生坂村:

- 物理的距離をデジタルで解決
住む場所でライフスタイルを我慢しない
村誌や地域の偉人のマンガで
地域の魅力を発信



地域資料を
電子化

● 天龍村:

- 天龍村暮らし安心ICTネットワーク事業で、希望される65歳以上の住民及び障がい者の方にタブレットを配布「緊急」「ラジコ」などと一緒に「デジとしよ信州」のアプリをインストール!

デジとしよ信州

20

「デジとしよ信州」が大切にしていきたいこと

デジとしよ信州は

紙からデジタルへの置き換え、集約ではなく
一人ひとりの住民、それぞれの市町村にとっての
選択の幅を広げる

リアルな図書館+デジとしよ信州で

すべての住民の

「読書・学びの基盤」の充実と

「公正な社会」づくりに

寄与していく

もっと、みんなの

デジとしよ信州へ!

デジとしよ信州